

令和7年度 災害時に備えた地域におけるエネルギー供給拠点の整備事業  
(緊急時石油製品供給安定化対策事業)

# 災害時対応実地訓練

## 訓練シナリオ

実施日	2025年11月11日 (火)
オリエンテーション	13:30 ~ 13:35
実地訓練	13:35 ~ 15:00
総括 (座学)	15:30 ~ 16:00
(緊急車両来場予定時刻	14:40)
訓練場所	株式会社 角藤田 セルフ岡山吉備津 S S



岡山県石油商業協同組合

主催 全国石油商業組合連合会

## <オリエンテーション> (13:30~13:35)

- ・ 開催挨拶、講師紹介
- ・ 訓練趣旨

### 地震発生時のSSにおける初動の実践

- ・ 停電を想定した非常電源への切換および緊急車両への給油
- ・ 施設内の動線規制や告知物配置の確認
- ・ 施設の安全性の確認

### ・ タイムテーブル

1. 身の安全確保	緊急停止、安全確保 (5分)	13:35~
2. 二次災害防止	① 分電盤遮断、火気確認 ② 施設の応急点検 ③ 発電機の点検、試運転 ④ 発電機の接続、電源切換 ⑤ 計量機、配管の確認 ⑥ 油出し検査 ⑦ 漏れ点検・在庫量把握 (50分)	13:40~
3. 給油再開に向けた対応	① 社内報告 ② 工務課、石油組合への報告 ③ 動線・給油方針の指示 (10分)	14:30~
4. 緊急車両への給油	緊急車両への給油 (10分)	14:40~
5. 通常電源の復旧	通常電源への切換 (10分)	14:50~
	会場移動・休憩 (30分)	15:00~
6. 振り返り	総括・座学・アンケート (30分)	15:30~
解散		16:00

### 連絡事項

- ・ 訓練中に講師から受講者の皆さんに災害時対応に関して質問させていただく場合がありますので、回答のご協力をお願いします。
- ・ 安全のため、訓練ゾーンから離れないようお願いいたします。各自適度な距離を保ってください。携帯電話は、マナーモードに設定し通話はご遠慮ください。
- ・ 地震等が発生した場合、講師および運営者等の指示に従って行動してください。

訓練想定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震発生（緊急地震速報の受信、震度6強程度の揺れ）</li> <li>・津波警報等の発令なし</li> <li>・停電、断水</li> <li>・負傷者なし、施設の致命的損傷なし</li> <li>・固定回線（電話・FAX）は不通</li> <li>・携帯回線は通話は不通、メールは通じる</li> </ul>
------	---

## 1. 身の安全確保（13:35～）

緊急停止、安全確保（5分）	
運営会社	ただ今、13時35分。緊急地震速報を受信しました。
講 師	(進行、合図)
所 長	<p>地震！地震！給油停止！ノズル戻してキヤップ閉めて！身体を低く、頭守って！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 全ての作業を中止し、身を守る行動をとる（省略）</li> <li>➢ セルフの場合はコンソールまたは建物外部の緊急停止スイッチを押す（省略）</li> <li>➢ 大きな揺れが収まったあと、ヘルメットを装着しその後の作業にあたる（省略）</li> </ul> <p>スタッフ集合！ケガはないですか？</p>
スタッフAB	ケガはありません。
所 長	敷地内の負傷者を確認して、報告してください。私は室内を確認します。
スタッフAB	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 施設内の安否確認を行う（省略）</li> </ul> <p>負傷者はいません。全員無事です。</p>
所 長	了解。室内も無事です。これから施設点検のため、一時閉店します。来店者を退出させた後、開口部を閉鎖してください。
スタッフA	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 通信手段の確保、災害情報等の入手（省略）</li> <li>➢ 来店者の避難・待機・誘導、開口部の遮断（省略）</li> </ul> <p>来店者の退出、施設の一時閉鎖完了しました。</p>
所 長	了解。
講 師	(進行、解説)

メモ欄

## 2. 二次災害防止 (13:40~)

### ① 分電盤遮断、火気確認 (1分)

講 師	(進行・合図)
所 長	これから計画に沿って初動対応を行います。 Aさん、火元を確認してください。私は分電盤を遮断します。 ➤ 100V/200V分電盤の主幹・子ブレーカをOFF (省略。電源切換時に実施)

### ② 施設の応急点検 (14分)

所 長	Bさん、点検表に基づいて設備の被害状況を確認してください。 それから地下タンク上部のマンホールを開けて、配管フランジの 滲みと油面計の数値を確認し、検水を行ってください。 ➤ 災害時設備点検表を渡す 余震には十分注意して各自作業に入ってください。
スタッフA	➤ 火元を確認 (省略) 施設内、周辺で火災はありません。
所 長	Aさん了解。Bさん報告お願いします。
スタッフB	➤ 計量機の外観と内部、出入口の段差、土間の亀裂、キャノピーの幕板、傾 斜、通気管、油水分離層の内部、注入口の外観などを指差し確認 (省略) ➤ タンク上部MHを開け、配管フランジの滲みとタンク直上式油面計の数値を確認。 検水棒にウォーターフィーリングペーストを塗り、検水口に挿入 (省略)  計量機、通気管、注入口に損傷なし。防火扉、土間に少しヒ ビが入っています。キャノピー幕板、照明の一部が落下してい ますが、他は異常ありません。地下タンクへの水の混入や漏えい はありません。油面計の在庫量はここにメモしました。
所 長	Bさん了解。落下危険範囲をカラーコーンとバーで囲って立入 禁止にしてください。
スタッフB	了解しました。 ➤ 危険範囲を区画 (省略)
講 師	(進行・解説)

メモ欄

## <参考資料> 災害時における設備点検表の例

給油再開の可否		可・否		不可能							
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害なし</li> <li>・応急措置により使用可能</li> <li>・危険物保安監督者 在</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害程度により使用不能</li> <li>・危険物保安監督者 不在</li> </ul>							
点検項目	点検内容	被害	「有」の場合の異常発生箇所								
出火危険	構内の火気	有・無	灰皿及び吸殻入れ(休憩室等) ガス給湯器 石油ストーブ(休憩室等)					その他( )			
油の漏洩危険		有・無	計量機	配管	ピット室	ポンプ室	応急措置(可・不可)				
キャノピー	損傷、漏えい等	有・無	照明	幕板	倒壊	傾斜	応急措置(可・不可)				
防火塀	損傷、漏えい等	有・無	傾斜	全倒壊	一部倒壊		応急措置(可・不可)				
計量機	損傷、漏えい等	有・無	油漏れ(基)・傾斜(基)・転倒(基)・破損(基) 応急措置(可・不可)								
付随設備	損傷等	有・無	転倒	傾斜	破損	脱落	応急措置(可・不可)				
地盤面 (タンクの上部スラブ含む)	損傷、漏えい、浮き上がり等	有・無	乗入口	計量機付近	タンク近辺	ピット室	応急措置(可・不可)				
道路との段差	車両の乗り入れ	有・無	車両の進入(可・不可)					応急措置(可・不可)			
建物破損	損傷等	有・無	ガラス	ドア	壁	天井落ち	応急措置(可・不可)				
配管	損傷、漏えい等	有・無	通気管	タンク上部MH内	計量機内 (ホースリール部)	給油口	応急措置(可・不可)				
油水分離槽	損傷、帶油等	有・無	蓋部分	内部破損	水漏洩		応急措置(可・不可)				
排水溝	損傷、帶油等	有・無	乗入口	分離槽付近			応急措置(可・不可)				
地下タンク	検知管の臭気・油分、水の混入	有・無	検知管	タンク(番) R・H・D・K・他		タンク内水 ( )mm	タンク(番) ( )mm				
			検知管	タンク番号(番) R・H・D・K・他		タンク内水 ( )mm	タンク(番) ( )mm				
電気	停電	有・無	照明	動力			応急措置(可・不可)				
ガス	損傷等	有・無	漏れの場合 ガス会社連絡	(済)	ガスの停止 (済)		応急措置(可・不可)				
水道	損傷等	有・無	場所:(付近)					応急措置(可・不可)			
サインポール 看板	損傷等	有・無	落下	割れ	傾斜	倒壊	応急措置(可・不可)				
緊急用発電機	損傷等		エンジンオイル(良・補充)	エアー フィルタ (良・否)	エンジン(良・否)	ケーブル(良・否)	燃料補給(済)				
周囲での異常・被害状況		建物倒壊 (有・無) 火災 (有・無) 類焼危険 (有・無) 道路亀裂亀裂、陥没等 (有・無) 液状化 (有・無)									

危険物保安監督者、危険物取扱者が点検を行う。被害があった場合の臨時の対応（応急措置）の方法や使用資機材については、消防庁「危険物施設の震災等対策ガイドライン」などを参考に所轄消防機関と被害ケース毎に「臨時の対応」等を協議し予防規定を整備しておくことが重要です。臨時の対応により給油継続できる期間（危険物の仮貯蔵・仮取扱い）については、地震発生直後から専門業者による点検等が可能となるまでの期間（発災後10日間程度を想定）に限り認められています。

## 2. 二次災害防止 (13:55~)

### ③ 発電機の運転前点検、試運転 (5分)

講 師	(進行、合図)
所 長	Aさん、発電機を点検し、テスト始動してください。
スタッフA	<p>(訓練のため、安全対策としてPOSをシャットダウンし、電源をOFFにしておく)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 発電機の設置、周囲の安全確保（省略）</li> <li>(以下は可搬式小型発電機の場合)</li> <li>➢ カバーを開き、ケーブル類を出す</li> <li>➢ エンジンオイル、バッテリー端子のゆるみ、配管結合部のオイル漏れ等を点検</li> </ul> <p><b>エンジンオイルよし！オイル漏れなし！始動します。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ チョークロッドを『全閉』、燃料コックレバー『出（ON）』</li> <li>➢ エンジンスイッチを『運転』→『ON』または 始動グリップで始動</li> <li>➢ エンジン回転が安定したらチョークロッドを徐々に『全開』</li> <li>➢ 異常なければ、暖機運転を実施（省略）</li> </ul> <p><b>発電機始動しました。異常ありません。暖機運転を行います。</b></p>
所 長	Aさん了解。暖機運転が終わったらエンジンを停止し、燃料を補給してください。

### ④ 発電機の接続、電源切り換え (20分)

講 師	(進行、合図。※ (株) アイエンジニアリングによる補足解説)
所 長	Aさん、緊急用発電機を始動・接続してください。
スタッフA	<p><b>了解しました。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 発電機を始動する（試運転と同じ手順）</li> <li>➢ 発電機のコンセントCV（三相・単相）をコンセント接続BOXへ接続する</li> </ul> <p><b>発電機、始動・接続しました。</b></p>
所 長	<p>Aさん了解。これから電源を切り換えます。</p> <p>（参加者見学を実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 分電盤の主幹ブレーカー（100V・200V）を『OFF』</li> <li>➢ 分電盤の子ブレーカー（100V/200V）を全て『OFF』</li> <li>➢ 電源切換盤の開閉器（100V/200V）を『非常用電源』側に切り換える</li> </ul> <p>Aさん、発電機のブレーカーをONにしてください。</p>
スタッフA	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 発電機のブレーカ（三相・単相）を『ON（入）』</li> </ul> <p><b>ブレーカーをONにしました。</b></p>
所 長	<p>Aさん了解。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 使用する機器類の分電盤子ブレーカー（100V/200V）を『ON』</li> <li>➢ （発電機でPOSが起動できる場合）外設機、POS本体を起動する。</li> </ul> <p>電源切り換え作業完了しました。</p>
講 師	(進行・解説)

# <参考資料> 発電機の配置、運転前点検、試運転

本ページは実機での解説が難しい場合等に使用します。後日 S S 内での参考資料として活用ください。



## 発電機の配置および運転前点検

- ・発電機の配置（消防機関に届出した位置）
- ・周囲点検（可燃物の有無、換気状況）
- ・正面パネルを開ける
- ・油量の点検（オイルゲージを抜く。少ない場合は補充）
- ・バッテリー液の確認（少ない場合は補充）
- ・冷却水の点検（少ない場合は補充）



本ページは S S 向け発電機の代表的なものとして中型発電機（8 kVA）を使用した場合の手順。  
実際に使用する際は発電機の取扱説明書を確認しつつ使用すること。



## 試運転

- ・燃料コックを「開」
- ・スロットルスイッチを「アイドリング」
- ・始動 スターターキーを「予熱」（約5秒） → 「始動」 → 回転が安定 → 「運転」
- ・燃料計で燃料残量の確認

【出典】全国石油商業組合連合会 令和7年度災害時対応実地訓練の振り返り共通テキスト（巻末資料）を基に作成

# <参考資料> 電源切換の手順（例）

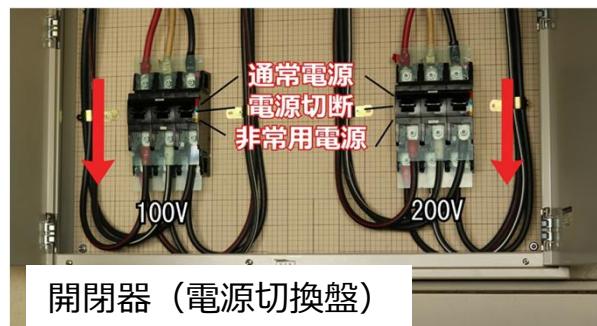
本ページは実機での解説が難しい場合等に使用します。後日 S S 内での参考資料として活用ください。

## 発電機の接続・始動

※分電盤を遮断した状態で実施する

- 電源切換盤

開閉器（100V/200V）を  
「通常電源」→「非常用電源」



- コンセント接続BOX

ケーブルを発電機側のコンセントに差し込む



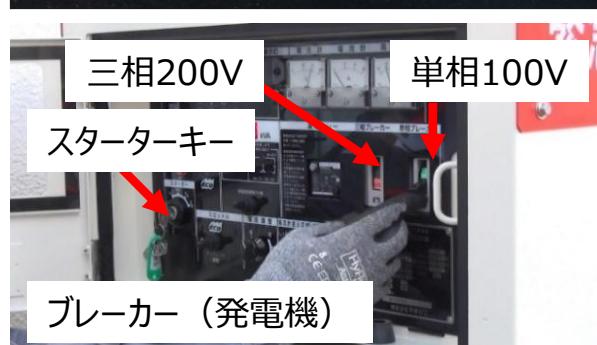
- 発電機

始動（スターターキーを「予熱」（約5秒）

→ 「始動」→ 回転が安定→ 「運転」）

スロットルスイッチを「運転」（昇圧）

ブレーカー（100V/200V）を「ON」



## 電源切換（分電盤操作）

- 分電盤

主幹ブレーカ（100V/200V）を「ON」

個別ブレーカ（100V/200V）を「ON」



※SS（電気工事）によっては、  
主幹ブレーカ（100V/200V）は  
「OFF」のまま



※発電機で使用する機器のみ「ON」  
100V : POS（本体、外設）、計量機など  
200V : 計量機

【出典】全国石油商業組合連合会 令和7年度災害時対応実地訓練の振り返り共通テキスト（巻末資料）を基に作成

© 2025 Sompo Risk Management Inc. All Rights Reserved.

## 2. 二次災害防止 (14:20~)

### ⑤ 計量機（機能）、配管の確認（8分）

講 師	(進行、合図)
所 長	(発電機でPOSが使用できる場合は、外接機、POS本体を起動したあとに実施) Bさん、計量機と配管をチェックしてください。
スタッフB	➢ モニター点灯を確認後、ノズルを上げて計量機のモーター音を指差し確認 点灯よし！異音なし！異常ありません。

### ⑥ 油出し検査（1分）

所 長	Bさん了解。全油種をそれぞれ専用容器に払い出し、エア噛みや水の混入がないか確認してください。
スタッフB	➢ 近くに消化器を配置し、ドライブウェイに水を巻き、金属容器（専用缶）を置く ➢ ノズル先端部を金属容器の縁に付けた状態で容器に油を払い出し、エアを噛んでいないか、または油に白濁が無いか目視で確認（いずれも省略） <b>払い出し完了しました。エア噛み、水の混入はありません。</b>
所 長	Bさん了解。

### ⑦ 漏れの点検、在庫量の把握（1分）

所 長	Aさん、漏えいの危険性と在庫量を確認してください
スタッフA	➢ 漏えい検査管や検知装置、在庫管理表など定められた方法で実施（省略） ➢ 電子式・電磁式油面計で残量を確認する。同油面計が使用できない場合は、地下タンク直上のマンホール内の直読式油面計で確認する。いずれの油面計も使用できない場合は、前日終了時点の在庫量と停電時までの給油量の差し引きで推計または非常電源による電磁式油面計の数値読み取り等で在庫量を把握（省略） <b>漏えい危険はありません。各油種の在庫量を確認しました。</b>
所 長	Aさん了解。
講 師	(進行、解説)

メモ欄

### 3. 給油再開に向けた対応 (14:30~)

#### ① 社内報告 (1分)

講 師	(進行、合図)
所 長	➤ 現状をメール報告、必要に応じて応援等の要請を実施（省略） 施設内の安否確認、応急点検の結果、在庫量を本社へメール報告します。セルフ岡山吉備津SSの現状報告です。負傷者なし。火災、危険物の漏えいはありません。防火塀と土間に少しひびがある程度です。地下タンクへの水の混入もありません。

#### ② 資源エネルギー庁、石油組合への報告 (1分)

※災害対応ガイドライン（中核SS・小口燃料配送拠点・住民拠点SS）に基づく報告

講 師	(進行。詳細は座学会場で解説)
-----	-----------------

#### ③ 給油方針等の指示 (8分)

講 師	(進行、合図)
所 長	初動対応計画に基づいて発電機を使用した給油再開の態勢に入ります。本日の給油方針を伝えます。 営業時間は一応18時まで。断水のためトイレは使用不可になります。補給の目途が立っていないので在庫残量が15%になった時点で給油は停止します。 一般車両は2,000円の限定給油、緊急車両は満タン給油とします。固定回線が不通のため、クレジットカードは使わず支払いは現金のみとします。（POS非連動で給油する場合：POSが使用できないため、手書き用の給油伝票を使ってください。） 緊急車両が来店した際は優先レーンに誘導し、給油してください。入口、出口は各1か所、それ以外の開口部からの進入と右折による入退店は禁止にします。 Bさん、使用しないレーンに車両が進入しないようレーンの仕切りと告知ツールを設置してください。 ➤ 指示のみ（Bの行動は省略。仕切り、告知ツールは訓練前に設置） 私は入口で給油量や使用レーン等の説明、優先給油対象車両の確認を行います。 各自使用するレーン付近で待機し誘導、給油の対応をお願いします。 ➤ Bは緊急車両の給油レーン付近で待機
講 師	(進行、解説)

## 4. 緊急車両への給油 (14:40~)

### ① 緊急車両への給油 (10分)

講 師	(進行・合図)
所 長	Bさん、緊急車両が来店したら優先レーンに誘導し、給油してください。 ➤ 入口付近で優先給油対象車両を確認

### 優先給油対象車両の特定、給油、伝票

所 長	➤ 緊急車両を特定※し、給油口を確認、給油レーンを案内 緊急自動車 :赤色灯やサイレン 自衛隊車両 :6桁ナンバー 緊急通行車両:確認標章、事前届出済証（県により封筒の場合あり）、工 務証明書をフロントガラスから見えるように掲示している車両 緊急車両入ります。
スタッフB	➤ 給油レーンに1台ずつ誘導し、油種を確認 油種はなんですか？
緊急車両	(該当油種名) です。
スタッフB	(該当油種名) ですね。(該当油種名) 満タン入ります！ ➤ 給油（訓練の進行都合により給油量は10 ℥まで）  給油完了しました。納品票です。 ➤ POS伝票の使用または手書き給油伝票を記入、緊急車両にサインをもらう (手書き給油伝票を本訓練で使用した際は納品票を運転者に渡さない。給油伝 票は石油組合仕様を訓練用として使用)

メモ欄

# <参考資料> 優先給油対象車両の識別

- ・緊急自動車 … 外観（赤色灯・サイレン付）
- ・自衛隊車両 … 外観（6桁ナンバー）
- ・緊急通行車両 … ①確認標章（公安委員会が発行）
  - ②事前届出済証（県により封筒の場合あり）
  - ③工務庁の証明書（自治体からの要請により工務庁が発行）
 をフロントガラスから見えるように掲示している車両



①緊急通行車両確認標章（見本）

別記様式第1号		署 名	号
<input type="checkbox"/> 災害対策用 <input type="checkbox"/> 地震災害 <input type="checkbox"/> 原子力災害 <input type="checkbox"/> 国民保護措置用		<input type="checkbox"/> 災害対策用 <input type="checkbox"/> 地震災害 <input type="checkbox"/> 原子力災害 <input type="checkbox"/> 国民保護措置用	
緊急通行車両等事前届出書		緊急通行車両等事前届出済証	
令和 年 月 日		左記のとおり事前届出を受けたことを証する 令和 年 月 日	
東京都公安委員会殿  申請機関名 住所番号 電話番号 取扱責任者役職名		東京都公安  緊急通行車両等事前届出済証  左記のとおり事前届出を受けたことを証する。 令和 年 月 日	
番号欄に表示されている番号		備考	
車両の用途（緊急輸送用車両においては、輸送人員又は品名）		(注) 1. 災害対策基本法、大規模地震対策特別措置法、特別措置法又は武力攻撃事態等における国際措置に関する法律に基づく交通規制が行われた場合に於ける緊急輸送を最優先の警察署、交通機動隊、高速道路交響機動隊及び運行本部（交通規制課）に報告を受けてください。 2. 届出内容に変更がある。又はこの届出済証を汚損し、若しくは改換した場合には、東京都公安委員会（警視庁経由）に届け出て再交付を受けてください。 3. 他の緊急通行車両等として使用される場合に該当する場合は速やかに返還してください。 (1) 緊急通行車両等として使用されることになったとき。 (2) 離脱となつたとき。 (3) その他緊急通行車両等として使用される必要性がなくなつたとき。	
使用者種別名 住所 電話番号 使用責任者役職名			
届出車両の出発地		東京都公安委員会	
※ この事前届出書（2枚組のもの）を1部作成し、自動車検査証又は車両を判定する書類の写し及び新車を使用して行う業務の内容を記す書類等を添付の上、車両の使用時の本拠の位置を管轄する警察署に提出してください。			
備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。			

②緊急通行車両等事前届出書（見本）

事業者No. :	該当車両No. :
 <b>経済産業省</b> <small>Ministry of Economy, Trade and Industry</small>	
○○年○○月に発生した△△災害に関する 中核SSIにおける優先給油対象車両証明書	
この証明書を掲示する車両は、標記災害対応に使用する場合に限り、 中核SSIにおける優先給油を受けられるものとする。	
<b>資源エネルギー庁 石油流通課</b>	

③資源エネルギー庁石油流通課が発行する優先給油対象車両証明書（見本）

【出典】全国石油商業組合連合会 令和7年度災害時対応実地訓練の振り返り共通テキスト（巻末資料）を基に作成

## 5. 通常電源の復旧 (14:50~)

### ② 通常電源への切り換え (10分)

講 師	(進行・合図)
所 長	➤ POSを稼働している場合はPOS電源をOFF Aさん、発電機を停止してください。
スタッフA	(以下は可搬式小型発電機の場合) ➤ 発電機のブレーカ（三相・単相）を『OFF（切）』 ➤ チョークレバーを『全閉』 ➤ エンジンスイッチを『停止』 → 『OFF』の位置に合わせる ➤ 燃料コックレバーを『OFF』 ➤ 発電機のコンセントCV（三相・単相）をコンセント接続BOXから抜く  発電機を停止しました。
所 長	➤ 分電盤の使用計量機の100V、200V子ブレーカーを『OFF』 ➤ 分電盤の100V、200V主幹ブレーカーを『OFF』 ➤ 電源切換盤の100V、200V開閉器を「通常電源」側に切り換える  (建物内の作業は、非常電源への切換と逆手順のため参加者見学を省略) ➤ 分電盤の平時使用している子ブレーカーを全て『ON』 ➤ 分電盤の100V、200V主幹ブレーカーを『ON』 ➤ POSを再起動  通常電源への切り換えが完了しました。
講 師	(進行・解説) (解説予備：分電盤操作など残りがあれば実施)

## 訓練終了 (15:00まで)

訓練終了後、出来るだけ早く通常営業に戻すため以下ご協力ください。

- ・ 設備業者は、主要設備の動作確認などサポートをお願いします。
- ・ 参加者は、運営者の案内に従って速やかに座学会場へ移動してください。

メモ欄

